

今回の ESD のひろばは「身近な ESD」をテーマにお話ししたいと思います。私たちの身近な生活の中になると「食べ物は残さずに」とか「ものは大切にね」ってことは思いつくのですが、その他は「う〜ん？」って感じではないでしょうか？

0歳児や1歳児にもESDってできるの？

そうですね、これから自我が芽生えようとしている子に理屈で教えてもなかなか伝わらないですね。ESD のひろばの第2回でも少しお話ししましたが、少年期、青年期以降には認知的能力と非認知的能力の「調和」のとれた資質・能力がたいせつになります。非認知的能力は乳幼児期から丁寧に子どもと関わり、自然遊びや好きなことに没頭させてもらった経験から「自分は愛されている」「何かあればたすけてもらえる」という基本的信頼感や、「やってみよう！」という自信や自己肯定感が育ちます。それがいまの私達にできることのひとつのようです。

具体的に非認知な・ん・と・か・が育つのとESDに何の関係があるの？

はい！前回のSDGsでもお話ししたように、世界の課題はそのものだけを解決すればよいのではなく、いくつもの課題がそれぞれに関係しあっているため包括的な問題解決が必要です。

その様な複雑な問題を解決できるのは、どんな人達だとあなたは想像しますか？その鍵となるのが非知的

能力なのです。右に掲載したのはNHKで放送中の

「すくすく子育て」で東京大学教育学研究学科の遠藤先生が非認知的能力について解説したものです。

そう、世界には日本に住む私たちには想像もできない様な問題があります。例えば水道がない村の子ども達は毎日の生活水を確保するために1日に何往復も水を汲み、勉強をする機会を失ったまま大人になります。この問題を解決するには、まず人に起こっている問題を自分ごととして共感する力や思いやりが必要です。次に問題は一人では解決できません。時には国際的な協力も必要です。社交性と協調性を持って人と関わり協働して取り組む必要があります。では皆でお金を出し合えば良いのでしょうか？そこに住む人たちに井戸の掘り方を教えたり、その人たち自身が持続的なインフラ整備ができる様に支援していくことです。それには根気強さ、粘り強さが必要

ですね。（次号へつづく、）

Q:「非認知能力」とは、どういう力なのでしょう。教えてください。

A: IQ などでは測れない心の力

回答：遠藤利彦さん

「非認知能力」には、大きく2つの力があります。まず、自尊心、自己肯定感、自立心、自制心、自信などの「自分に関する力」。そして、一般的には社会性と呼ばれる、協調性、共感する力、思いやり、社交性、良いか悪いかを知る道徳性などの「人と関わる力」です。これらの力は「社会情緒的スキル」ともいわれ、乳幼児期に身につけておくと、将来に渡って幸せな生活を送ることができるといわれています。日本の幼児教育では、もともと心の教育を大切にしてきました。近年、測ることができる能力（読み書きや計算といった知育教育など）が重視されがちでしたが、最近になり、「非認知能力」が注目されるようになったのです。

NHK すくすく子育て[2018/09/01 放送]より